

計 画 期 間
令和3年度～令和12年度

飛騨市酪農・肉用牛生産近代化計画書

令和3年12月

飛騨市

目 次

- I 酪農及び肉用牛生産の近代化に関する方針
- II 生乳の生産数量及び乳牛の飼養頭数の目標又は肉用牛の飼養頭数の目標
 - 1 生乳の生産数量及び乳牛の飼養頭数の目標
 - 2 肉用牛の飼養頭数の目標
- III 酪農経営又は肉用牛経営の改善の目標
 - 1 酪農経営
 - 2 肉用牛経営
- IV 乳牛又は肉用牛の飼養規模の拡大に関する事項
 - 1 乳牛（乳肉複合経営を含む）
 - 2 肉用牛
- V 国産飼料基盤の強化に関する事項
- VI 生乳の生産者の集乳施設の整備その他集乳の合理化のための措置又は肉用牛の共同出荷その他肉用牛の流通の合理化のための措置
 - 1 集送乳の合理化
 - 2 肉用牛の共同出荷その他肉用牛の流通の合理化のための措置
- VII その他酪農及び肉用牛生産の近代化を図るために必要な事項

I 酪農及び肉用牛生産の近代化に関する方針

酪農及び肉用牛生産は、農業の基幹部門として農業生産額の大きなウエイトを占めており、農村地域の活性化にも寄与している。更に、消費者ニーズは従来の低価格・高品質に安全・安心・健康志向も加わり、非常に多様化している。このような状況を踏まえ、酪農及び肉用牛生産の健全な発展と消費者から支持される畜産物の安定供給を図り、自給飼料に立脚しつつ、酪農及び肉用牛のバランスの取れた振興を図るものとする。

酪農については、性判別技術を活用した乳用後継牛確保の効率化を推進するとともに、岐阜県家畜育成牧場（東濃牧場）を活用した後継牛育成の省力化及び優良初妊牛の導入を促進することで、計画的な搾乳牛の更新を支援する。また、受精卵移植による和牛生産を推奨することで、収入の増加及び和牛生産頭数の増加を図る。

肉用牛については、育種価及びゲノミック評価手法による遺伝的能力の評価指標を参考に、受精卵移植を活用した高能力牛の効率的な生産を推進するとともに、遺伝的能力に優れた県内産の繁殖雌牛の導入や自家産雌牛の保留を推進する。また、市内の飛騨牛繁殖研修センターの研修生確保や研修生支援を強化し、後継者の育成を図る。

II 生乳の生産数量及び乳牛の飼養頭数の目標又は肉用牛の飼養頭数の目標

1 生乳の生産数量及び乳牛の飼養頭数の目標

区域名	区域の範囲	現在（平成30年度）					目標（令和12年度）				
		総頭数	成牛頭数	経産牛頭数	経産牛1頭当たり年間搾乳量 kg	生乳生産量 t	総頭数	成牛頭数	経産牛頭数	経産牛1頭当たり年間搾乳量 kg	生乳生産量 t
飛騨市	市内全域	頭 90	頭 79	頭 79	8,100	640	頭 110	頭 97	頭 97	8,600	834
合計		90	79	79	8,100	640	110	97	97	8,600	834

- (注) 1. 成牛とは、24ヶ月齢以上のものをいう。以下、諸表において同じ。
2. 生乳生産量は、自家消費量を含め、総搾乳量とする。
3. 「目標」欄には、令和12年度の計画数量を、「現在」欄には原則として平成30年度の数量を記入すること。以下、諸表について同じ。

2 肉用牛の飼養頭数の目標

区域名	区域の範囲	現在（平成30年度）								目標（令和12年度）							
		肉用牛総頭数	肉専用種				乳用種等			肉用牛総頭数	肉専用種				乳用種等		
			繁殖雌牛	肥育牛	その他	計	乳用種	交雑種	計		繁殖雌牛	肥育牛	その他	計	乳用種	交雑種	計
飛騨市	市内全域	頭 2,975	頭 1,053	頭 1,269	頭 647	頭 2,969	頭 6	頭 0	頭 6	頭 3,650	頭 1,320	頭 1,400	頭 930	頭 3,650	頭 0	頭 0	頭 0
合計		2,975	1,053	1,269	647	2,969	6	0	6	3,650	1,320	1,400	930	3,650	0	0	0

- (注) 1. 繁殖雌牛とは、繁殖の用に供する全ての雌牛であり、子牛、育成牛を含む。
2. 肉専用種のその他は、肉専用種総頭数から繁殖雌牛及び肥育牛頭数を減じた頭数で子牛を含む。以下、諸表において同じ。
3. 乳用種等とは、乳用種及び交雑種で、子牛、育成牛を含む。以下、諸表において同じ。

Ⅲ 近代的な酪農経営方式及び肉用牛経営方式の指標

1 酪農経営方式
単一経営

目指す 経営の姿	経営概要						生産性指標																備考	
	経営 形態	飼養形態					牛		飼料							人								
		経産牛 頭数	飼養 方式	外部化	給与 方式	放牧 利用 (放牧地 面積)	経産牛 1頭 当たり 乳量	更新 産次	作付 体系 及び 単収	作付 延べ 面積 ※放牧 利用を 含む	外部化 (種類)	購入 国産 飼料 (種類)	飼料 自給率 (国産 飼料)	粗飼 料給 与率	経営内 堆肥 利用 割合	生産コスト	労働		経営					
																生乳1kg 当たり 費用合計 (現状との 比較)	経産牛 1頭 当たり 飼養 労働 時間	総労働 時間 (主たる 従事者)	粗 収入	経 営 費	農 業 所 得	主たる 従事者 1人 当たり 所得		
性判別技術 や受精卵移植 技術を活用した 効率的な乳用後 継牛確保と和子 牛生産を行い、 収益性の向上を 図る法人経営	法人	70頭	フリー ストー ル ミル キン グ パー ラー	ヘル パー 子牛育 成 (公共 牧場)	T M R	－ (－)	9,500kg	3.7産次	トウモロコシ	0.4ha	コントラクター	稲WCS	5.3%	50%	5割	80 (82%)円(%)	86hr	6,000 (2,000hr × 3人)hr	8,500万円	6,130万円	1,900万円	633万円	常勤 雇用 1人 臨時 雇用 2人	

(注) 1. 「方式名」欄には、経営類型の特徴を、「備考」欄には「方式」の欄に掲げる方式を適用すべき区域名等を記入すること。
2. 6次産業化の取組を織り込む場合には、基本方針の第3の票のように、6次産業化部門に係る指標を分けて記入すること。
3. (注) 1, 2については、「2肉用牛経営方式」についても同様とする。

2 肉用牛経営方式

(1) 肉専用種繁殖経営

目指す 経営の姿	経営概要						生産性指標																		備考		
	経営 形態	飼養形態					牛				飼料								人								
		飼養 頭数	飼養 方式	外 部 化	給与 方式	放牧 利用 (放牧 地面積)	分娩 間隔	初産 月 齢	出荷 月 齢	出荷時 体重	作付 体系 及び 単収	作付延 べ面積 ※放牧 利用を 含む	外 部 化	購入 国産 飼料 (種類)	飼料 自給率 (国産 飼料)	粗飼料 給与率	経営内 堆肥 利用 割合	生産コスト	労働		経営						
																		子牛1頭 当たり 費用合計 (現状との 比較)	子牛 1 頭 当たり 飼養 労働 時間	総労働 時間 (主たる 従事者)	粗 収 入	経 営 費	農 業 所 得	主たる 従事者 1人 当たり 所得			
放牧により 省力化を図りつつ、効 率的な飼養 管理を図る 家族経営	家族兼 業	頭 繁殖 雌牛 30	夏:放牧 冬:牛房群飼 (受精卵生 産)	コント ラクター	分離 給与	(ha) 公共 牧場 (9)	ヶ月 12. 5	ヶ月 23. 5	ヶ月 8. 5	kg 285	kg イタリア ライグラス スーダン グラス	ha 5. 3	コント ラクター	稲WCS	% 26. 0	% 80. 0	割 10	千円 (%) 288 (67%)	hr 45	hr 3, 470 (1, 600hr ×2人)	万円 2, 250	万円 990	万円 1, 260	万円 630	臨時 雇用 1人		
放牧やCBSの 活用を通 じ、省力化 と牛舎の有 効活用により 規模拡大 を図る家族 経営	家族専 業	頭 繁殖 雌牛 80	夏:放牧 冬:牛房群飼 (分娩監視装 置、ICT等を 活用した放 牧監視技 術、早期離 乳)	CBS	分離 給与 (自動 給餌 機・粗 飼料 混合給 与)	公共 牧場 (25)	ヶ月 12. 5	ヶ月 23. 5	ヶ月 8. 5	kg 285	kg イタリア ライグラス スーダン グラス	ha 13. 3	-	稲WCS	% 26. 0	% 80. 0	割 10	千円 (%) 400 (92%)	hr 33	hr 2, 370 (1, 600hr ×1人)	万円 4, 110	万円 2, 350	万円 1, 760	万円 1, 190	補助 従事 者 1人		
稲WCSを活用 し、分娩監 視装置やほ 乳ロボットの 導入、コン トラクターの 活用等により 分娩間隔の短 縮や省力化 を図る大規 模法人経営	法人	頭 繁殖 雌牛 200	牛房群飼 (ほ乳ロボッ ト、発情発 見装置、分 娩監視装置)	コント ラクター	分離 給与 (自動 給餌 機・粗 飼料 混合給 与)	- (-)	ヶ月 12. 5	ヶ月 23. 5	ヶ月 8. 5	kg 285	kg スーダン グラス ソルガム	ha 12. 5	コント ラクター	稲WCS	% 26. 0	% 80. 0	割 10	千円 (%) 366 (85%)	hr 51	hr 8, 800 (1, 600hr ×3人)	万円 10, 280	万円 5, 580	万円 4, 700	万円 1, 570	常勤 雇用 3人		

- (注) 1. 「方式名」欄には、経営類型の特徴を、「備考」欄には「方式」の欄に掲げる方式を適用すべき区域名等を記入すること。
2. 6次産業化の取組を織り込む場合には、基本方針の第3の票のように、6次産業化部門に係る指標を分けて記入すること。
3. (注) 1, 2については、「2肉用牛経営方式」についても同様とする。

(2) 肉牛用（肥育・一貫）経営

目指す 経営の姿	経営概要					生産性指標																	備考			
	経営 形態	飼養形態					牛					飼料							人							
		飼養 頭数	飼養 方式	外部 化	給与 方式	放牧 利用 (放牧 地面積)	肥育 開始時 月齢	出荷 月齢	肥育 期間	出荷時 体重	1日 当たり 増体量	作付 体系 及び 単収	作付延 べ面積 ※放牧 利用を 含む	外部 化	購入 国産 飼料 (種類)	飼料 自給 率 (国産 飼料)	粗飼 料給 与率	経営 内 堆肥 利用 割合	生産コスト	労働		経営				
																			肥育牛 1頭当たり 費用合計 (現状との 比較)	肥育牛 1頭 当たり 飼養労働 時間 (主たる 従事者)	総労働 時間 (主たる 従事者)	粗 収 入		経 営 費	農 業 所 得	主たる 従事者 1人 当たり 所得
飼料用米等の活用や増体能力に優れたもと畜の導入等により、生産性の向上や規模拡大を図る肉専用種肥育の家族経営	家族 専 業	肥育牛 200	牛房群飼 (自動給餌機)	-	分離給与	(ha) -	ヶ月 8.5	ヶ月 29.1	ヶ月 20.6	kg 780	kg 0.88	kg 稲WCS トウモロコシ	ha 1.6	コントラクター	稲WCS 飼料用米	% 0.1	% 20.0	割 3	円(%) 肉専用種 (去勢) 346 (89%)	肥育牛 29時間	3,810 (1,800hr ×2人)	万円 15,380	万円 13,490	万円 1,890	万円 950	臨時 雇用 1人
飼料用米等の活用や肥育牛の出荷月齢の早期化、繁殖・肥育一貫化による飼料費やもと畜費の低減等を図る肉専用種繁殖・肥育一貫の大規模法人経営	法人	繁殖雌牛 300 育成牛 200 肥育牛 500	牛房群飼 (ほ乳ロボット、発情発見装置、分娩監視装置、自動給餌機、起立困難牛検知システム)	-	TMR 給与	(ha) -	ヶ月 8.5	ヶ月 29.1	ヶ月 20.6	kg 780	kg 0.88	kg 稲WCS イタリアンライグラス	ha 27.8	-	稲WCS 飼料用米	% 13.7	% 40.0	割 4	円(%) 肉専用種 (去勢) 449 (60%)	子牛 26時間 肥育牛 21時間	16,490 (1,800hr ×4人)	万円 31,570	万円 24,450	万円 7,110	万円 1,780	常勤 雇用 4人 臨時 雇用 2人

(注) 1. 繁殖部門との一貫経営を設定する場合には、肉専用種繁殖経営の指標を参考に必要な項目を追加すること。

2. 「肥育牛1頭当たりの費用合計」には、もと畜費は含めないものとする。

IV 乳牛又は肉用牛の飼養規模の拡大に関する事項

1 乳牛

(1) 地域別乳牛飼養構造

区域名		① 総農家戸数	② 飼養農家戸数	②／①	乳牛頭数		1戸当たり平 均飼養頭数 ③／②
					③ 総数	④ うち成牛 頭数	
飛騨市	現在	戸 1,623	戸 3 (-)	% 0.2	頭 90	頭 79	頭 30
	目標		3 (-)		110	97	37
	現在						
	目標		()				
合計	現在	1,623	3 (-)	0.2	90	79	30
	目標		3 (-)		110	97	37

(注) 「飼養農家戸数」欄の () には、子畜のみを飼育している農家の戸数を内数で記入する。

(2) 乳牛の飼養規模の拡大のための措置

① 規模拡大のための取組

生乳の生産基盤強化に向け、新たな施設整備及び機械導入による規模拡大に係る取組に対して支援を行う。また、酪農家が乳用牛の増頭を図るために必要な乳用初妊牛導入に係る取組に対しても支援を行う。

② 規模拡大は困難だが経営規模を維持するための取組

性別別技術を活用することにより、効率的な高能力乳用後継牛の生産を推進するとともに、岐阜県家畜育成牧場(東濃牧場)を活用し、乳用後継牛を確保することで、計画的な搾乳牛の更新を支援する。

また、ICT技術の活用を推進し、労働負担の軽減を図るとともに、牛群検定への加入を促進することで経営の改善を図る。

③ ①・②を実現するための地域連携の取組

県の補助事業を活用し、酪農関係者の連携による地域全体の収益力向上を目指す取組を推進するとともに、地域の活性化を図る。

2 肉用牛

(1) 地域別肉用牛飼養構造

	区域名		① 総農家数	② 飼養農家 戸数	②／①	肉用牛飼養頭数							
						総数	肉専用種				乳用種等		
							計	繁殖雌牛	肥育牛	その他	計	乳用種	交雑種
肉専用種 繁殖経営	飛騨市	現在	戸 1,623	戸 14	% 0.9	頭 1,700	頭 1,700	頭 1,053	頭 0	頭 647	頭 0	頭 0	頭 0
		目標		15		2,250	2,250	1,320	0	930	0	0	0
肉専用種 肥育経営		現在	1,623	9 (5)	0.6	1,275	1,269	0	1,269	0	6	6	0
		目標		8 (5)		1,400	1,400	0	1,400	0	0	0	0
乳用種・ 交雑種 肥育経営		現在	1,623	0 (-)	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		目標		0 (-)		0	0	0	0	0	0	0	0
合計		現在	1,623	23	1.4	2,975	2,969	1,053	1,269	647	6	6	0
		目標		23		3,650	3,650	1,320	1,400	930	0	0	0

(注) () 内には、一貫経営に係る分(肉専用種繁殖経営、乳用種・交雑種育成経営との複合経営)について内数を記入すること。

(2) 肉用牛の飼養規模の拡大のための措置

① 規模拡大のための取組

生産性向上を図るため、新たな施設整備及び機械導入による規模拡大に係る取組に対して支援を行う。また、繁殖雌牛増頭支援事業等を活用し、飼養頭数増加に係る取組に対しても支援を行う。その他、乳用牛への和牛受精卵移植による和牛生産に係る取組を推進し、県内生まれ、県内育ちの「飛騨牛」生産拡大を目指す。

② 規模拡大は困難だが経営規模を維持するための取組

育種価やゲノミック評価手法による遺伝的能力の評価指標を参考にするとともに、肉色やモモの肉質といった「飛騨牛の特徴」に優れ、早期に十分な体重に達し、現状と同程度の脂肪交雑が入り、繁殖性にも優れる繁殖雌牛からの採卵や受精卵移植に係る取組に対して支援を行う。また、優良繁殖雌牛保留支援事業を活用し、遺伝的能力に優れた県内産の繁殖雌牛の導入や自家産雌牛の保留を推進する。その他、牛伝染性リンパ腫清浄化のため、感染牛の淘汰更新や感染予防対策に係る取組に対しても支援を行う。

③ ①・②を実現するための地域連携の取組

研修会等の開催により生産者への啓発を図るとともに、全国和牛能力共進会の取組を推奨・支援し、「飛騨牛」の更なるブランド力向上を目指す。

V 国産飼料基盤の強化に関する事項

1 飼料の自給率の向上

		現在	目標（令和12年度）
飼料自給率	乳用牛	0.8%	5.3%
	肉用牛	13.7%	13.1%
飼料作物の作付延べ面積		124ha	155ha

2 具体的措置

①粗飼料基盤強化のための取組

公共牧場及び畜産農家における採草・放牧地の造成や再整備を支援し、自給飼料生産基盤の維持・拡大を図る。
 市内における飼料自給率の向上を図るため、機械導入支援や飼料作物の作付促進等を図る。
 市有採草地において粗飼料を生産する生産者に対し、輸送費補助を行う。

②輸入とうもろこしの代替となる飼料生産の取組

耕種農家と連携し、市内における飼料用稲（飼料用米、稲WCS）の生産拡大を推進する。また、市内流通を推進するため、市内で生産された飼料用稲を利用する畜産農家に対して支援を行う。

Ⅵ 生乳の生産者の集乳施設の整備その他集乳の合理化のための措置又は肉用牛の共同出荷その他の肉用牛の流通の合理化のための措置

1 集送乳の合理化

コスト低減をはかりながら、岐阜県の合理化方針に沿って推進していく。

2 肉用牛流通の合理化のための措置

(1) 肉用牛(肥育牛)の出荷先

	現在（平成30年度）				目標（令和12年度）			
	出荷頭数 ①	出荷先		②/①	出荷頭数 ①	出荷先		②/①
		県内 ②	県外			県内 ②	県外	
肉専用種	頭 800	頭 795	頭 5	% 99	頭 890	頭 884	頭 6	% 99
乳用種	3	3	0	100	0	0	0	0
交雑種	0	0	0	0	0	0	0	0

(2) 肉用牛の流通の合理化

具体的取組

飛騨食肉センターの運営におけると畜部門の運営費の一部負担及び牛特定部位の焼却に係る費用の一部負担により飛騨地域のと畜業務の円滑化を支援するとともに、新たな食肉基幹市場の建設を促進するための岐阜県食肉基幹市場建設促進協議会が行う活動を支援する。

Ⅶ その他酪農及び肉用牛生産の近代化を図るために必要な事項

計画期間内に重点的に取り組む事項

【事項番号① 肉用牛・酪農経営の増頭・増産】

導入補助事業等を活用し、飼養頭数の増加、遺伝的能力に優れた県内産の繁殖雌牛の導入、自家産雌牛の保留に対する取組を推進することで、酪農経営においては生乳生産量の増加、肉用牛経営においては子牛生産頭数の増加を図り、経営の安定化に努める。

【事項番号③ 経営を支える労働力や次世代の人材の確保】

畜産担い手確保のため、市内の飛騨牛繁殖研修センターの研修生確保や研修生支援を強化し、後継者の育成を図る。また、就農希望者や新規就農者支援のため、視察研修、牛舎建設、機械導入等に対する費用補助を行う。

【事項番号⑨ 家畜衛生対策の充実・強化】

牛伝染性リンパ腫清浄化のため、抗体検査や抗原検索に係る費用の一部を助成し、感染牛の淘汰更新や感染予防対策に係る取組に対して支援を行う。